

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	3490900036
法人名	有限会社 まつした
事業所名	グループホームなごみ
所在地 (電話番号)	広島県三原市明神2丁目11-13 (電 話) 0848-67-0294

評価機関名	(社福)広島県社会福祉協議会		
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2		
訪問調査日	平成20年3月19日	評価確定日	平成20年4月10日

【情報提供票より】(平成20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年4月1日	
ユニット数	2 ユニット	18人
職員数	15人	常勤 11人, 非常勤 4人, 常勤換算 13.2人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	鉄骨造 地上2階建1~2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円)	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	-円	昼食	-円
	夕食	-円	おやつ	
	又は1日 1,500円			

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	18人	男性	4人	女性	14人
要介護1	4人	要介護2	7人		
要介護3	7人	要介護4	0人		
要介護5	0人	要支援2	0人		
年齢	平均 86歳	最低	77歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木曾胃腸科内科, うらさき歯科, 松下クリニック
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームなごみは、沼田川沿いの閑静な住宅街の一角にあり、周辺には医院やスーパー、公園等が点在するなど生活環境に恵まれている他、春には背部の山々が山桜でピンクに染まり、春の訪れを実感できる景色が真近に感じられるホームです。母体クリニックでこれまで培ってきた地域とのつながりにより、協力医院との連携が十分図られている他、系列の介護事業所や施設において、これまで蓄積してきたケア技術や知識について助言指導を受ける機会が確保されており、医療・介護の協体制が、なごみのチームケアを支えるとともに、利用者・家族が安心して生活するための体制づくりへとつながっています。

ホームでは、得意料理に腕を振るわれている利用者、ベランダでプランター菜園を楽しまれている利用者等、その人らしい思い思いの時間を過ごされており、一人ひとりの「得意なこと」「好きなこと」が日々の生活の中で発揮できるよう役割づくり、場面づくりの工夫を行うとともに、利用者のつくった野菜をみんなで調理したり、利用者になごみの声かけを行うことで、利用者が生活の中で役割を実感し、生きがいや活動意欲をもてるよう配慮されています。また、スーパー等に外出した際には、それぞれのお小遣いで買い物する機会をつくるなど、利用者のこれまでの習慣を継続できるように支援を行うことで、利用者の自信の回復や暮らしの中のメリハリにつながるよう支援されています。

その他、「なごみ」ならではの特色として、利用者がこれまでの生活の中で慣れ親しんできた愛称でお互いを呼ばれており、気心の知れた利用者同士の関係がホームの和やかな雰囲気につながっています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	第1回目の評価のため、特になし。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、開設当初から積極的に取り組まれており、評価結果を行政や家族に開示し、ホームの取り組みを示す機会として活用するとともに、サービスの質の改善、向上につなげられています。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議が利用者、家族、市職員、町内会長、民生委員、地域包括支援センター等、様々な立場の人の参加のもと、定期的に開催されており、積極的な意見交換が行われています。また、会議で出された意見や要望については、次回の会議で対応を報告するとともに議事録を開示し、話し合いの内容をサービスの質の向上に活かせるよう取り組まれています。また、行政に運営推進会議の議事録を持参するなどの取り組みを継続し、ホームに気軽に立ち寄れるような関係づくりを行いながら、お互いに行き来する中で、さらに関係を深められ、サービスの質向上につなげられることを期待します。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者、家族の思いや生活歴等の把握に努められており、それらがサービスに具体的に反映できるよう取り組まれています。また、家族の意見・要望を随時受け入れられる体制が整えられている他、利用者の体調変化等については、その都度連絡し、細やかな説明を心がけるなど、意見を苦情に発展させないしくみづくりがすすめられています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム行事を行う際には、手品やエレクoon、銭太鼓等、積極的に地域ボランティアの受け入れを行う他、民生委員との連携を密にするなど、母体法人がこれまで培ってきた地域の人との信頼関係を基盤として、積極的に地域の人との交流に努められています。また、地域の障害者作業所と交流を行うなど、地域の人や機関との交流の場を設けることで、お互いに地域で暮らしていることを実感できるよう取り組まれています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者・職員は、理念をもとに意識を統一したうえで、サービスを提供することの意義を理解されており、管理者・職員の話し合いによって、ケアに対する思いを込めた具体的な4つの理念が掲げられています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時に理念の確認を行い、自ら提供するサービスを振り返りながら、理念に沿ったケアの実践に努められています。また、玄関やキッチン等、目のつく場所に理念を掲げ、職員全員が理念を理解、共有できるよう取り組まれています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム行事を行う際には、手品やエレクトーン、銭太鼓等、積極的に地域ボランティアの受け入れを行う他、民生委員との連携を密にするなど、母体法人がこれまで培ってきた地域の人との信頼関係を基盤として、積極的に地域の人との交流に努められています。また、地域の障害者作業所と交流を行うなど、地域の人や機関との交流の場を設けることで、お互いに地域で暮らしていることを実感できるよう取り組まれています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価は今回が初めての受審ですが、自己評価については、開設当初から積極的に取り組まれており、評価結果を行政や家族に開示し、ホームの取り組みを示す機会として活用するとともに、サービスの質の改善、向上につながられています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が利用者、家族、市職員、町内会長、民生委員、地域包括支援センター等、様々な立場の人の参加のもと、定期的で開催されており、積極的な意見交換が行われています。また、会議で出された意見や要望については、次回の会議で対応を報告するとともに議事録を開示し、話し合いの内容をサービスの質の向上に活かせるよう取り組まれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の議事録や自己評価表を持参し、積極的に行政との関係づくりに努められており、ホームから相談をもちかけるなどの協力関係はできていますが、行政職員が、気軽にホームに立ち寄る関係までにはいたっていません。	○	ホーム便りの送付やホーム行事の参加案内を行うなどの取り組みを継続し、ホームに気軽に立ち寄れるような関係づくりを行いながら、お互いに行き来する中で、さらに関係を深められ、サービスの質向上につなげられることを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に利用者の生活の様子について報告されている他、なごみ便りには、行事案内や写真を掲載し、遠方で訪問できない家族に、利用者の暮らしぶりや表情等が伝わるように配慮されています。また、利用者の誕生日に家族からプレゼントや声の便りが届くよう働きかけを行うなど、利用者や家族の関わりを大切にした取り組みが、利用者・家族の喜びや安心感につながっています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の思いや生活歴等の把握に努められており、それらがサービスに具体的に反映できるよう取り組まれています。また、家族の意見・要望を随時受け入れる体制が整えられている他、利用者の体調変化等については、その都度連絡し、細やかな説明を心がけるなど、意見を苦情に発展させないしくみづくりがすすめられています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットのホームのため、緊急時のサポート体制を考慮し、ユニット間の異動を行うことで、利用者や職員のなじみの関係を築けるよう工夫されています。また、異動の場合には、家族に報告を行い、利用者への影響が最小限となるよう取り組まれています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修が必要に応じて開催されている他、外部研修に順番で参加されており、研修終了後には、ミーティングや会議を活用して、研修内容の伝達・共有に取り組まれています。	○	開設1年目のホームとして、研修によるケアのスキルアップの必要性を理解されています。日々の業務が多忙であり、職員体制等、研修に参加することが困難な面もありますが、研修に参加したいという職員の前向きな意欲を大切にし、研修機会の確保や働きながら学べる環境づくりをすすめられることを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会を兼ねて他のホームを相互訪問する機会が設けられており、他のホームを見学することで、自ら提供するサービスを振り返るきっかけとなっている他、「なごみ」独自の取り組みを再認識する場もなっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に十分な話し合いの機会を設けるとともに、自宅訪問の際のアセスメントやかかりつけ医からの情報をもとに、ケアカンファレンスを実施し、利用者・家族が納得したうえで、安心してサービスの利用開始が行えるよう取り組まれています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	被爆体験や子育て等の経験を聴くことで、利用者の思いの共有に努められており、利用者から学んだことが、職員の学びにつながっています。また、日々の生活の中で、利用者一人ひとりの出番や役割づくりが行われており、利用者自身が人の役にたっていることを実感することで、生活の中にはりあいを感じたり、活動の意欲が向上するよう取り組まれています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味、嗜好等の「好きなこと」や生活習慣等を把握するため、ホーム独自でバックグラウンドシートを作成し、一人ひとりの思いの把握に努めるとともに、それらの情報を職員間で共有したうえで、個別ケアの実践に向けて取り組まれています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	かかりつけ医等と連携を図りながら、利用者・家族の希望を反映した介護計画が作成されています。また、利用開始時や退院直後の利用者の心身状態の変化に配慮し、暫定プランが作成されている他、利用者の日々の暮らしぶりを詳細に記録しながら、現状に即したサービスが提供できるよう取り組まれています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しが行われている他、入退院時や介護度の変更等、必要な見直しがかかりつけ医との連携のもとで行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の多くが、地元の出身であり、住み慣れた地域での暮らしが、ホームの利用によって継続できるよう取り組まれています。また、母体のクリニックがこれまで培ってきた地域とのつながりにより、協力医院や関係機関との連携も十分図られており、利用者・家族が安心して生活するための体制が整えられています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望するかかりつけ医を確認するとともに、適切な医療が継続して受けられるよう支援されています。また、医師が2ユニットを交互に毎週訪問されている他、協力歯科への通院支援も行われています。通院の際の外出も利用者にとっての楽しみの一つとなっており、一人ひとりの思いに配慮しながら、利用者の健康管理が行われています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、対象となる利用者はいませんが、重度化した場合を想定し、ターミナルケアに対する職員の意識統一や知識、ケア技術の向上に努められています。一人ひとりの「できること」「できないこと」を大切にしながら、重度化した場合でも、その人らしい暮らしが送れるよう環境づくりがすすめられています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導の際には、利用者同士の関係に配慮してさりげない声かけを行うなど、利用者の尊厳やプライバシーを大切に支援が行われています。また、個人ファイルは、利用者の名前をアルファベットで表記するなど、万一、記録類が第三者の目に触れても、個人が特定できないよう配慮されており、個人情報保護の徹底に取り組まれています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの「楽しみごと」が大切にされており、その日の利用者の状態や体調に応じて、その人らしい1日が過ごせるよう配慮されています。また、レクリエーションに参加しない利用者には、職員が声かけを行うなど個別の対応が行われており、訪問時には、歌を歌う利用者や夫婦でのんびり過ごされる利用者の姿が見受けられ、その人らしい思いの暮らしが支援されていました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養バランスに配慮したうえで、利用者の嗜好に応じた食事が提供されています。また、食事の準備、後片づけ等の食事の一連の作業を利用者と一緒に行うとともに、職員の見守りや介助を徹底することで、利用者一人ひとりのペースでゆっくりと食事を食べられるよう配慮されており、食事を楽しむための環境づくりが行われています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望の時間帯に毎日入浴できるよう体制が整えられています。また、生活表のバイタル記録を参考に、入浴の可否を検討するとともに、お風呂嫌いな利用者への声のかけ方を工夫するなど、安全で快適な入浴が支援されています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意料理に腕を振るわれている利用者、ベランダでプランター菜園を楽しまれている利用者等、一人ひとりの「得意なこと」「好きなこと」が日々の生活の中で発揮できるよう役割づくり、場面づくりに取り組まれています。また、利用者のつくった野菜を調理したり、職員が利用者になげらいの声かけを行うことで、利用者が生活の中で役割を実感し、生きがいや活動意欲をもてるよう配慮されています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ、家族との外食など積極的に外出の機会がつくられています。また、スーパーでは、それぞれのお小遣いで買い物する機会をつくるなど、利用者のこれまでの習慣を継続できるような支援が行われており、利用者の自信の回復や暮らしの中にメリハリをつけることにつながっています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を認識し、鍵をかけないケアに取り組まれています。また、ホームの前には比較的交通量の多い道路が通っているため、利用者には感知器を持っていただくことで、利用者の行動を把握し、利用者の安全に配慮されています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、防災訓練が実施されている他、系列の他事業所との連携が図られており、万が一の場合にも、利用者の安否が確認できるよう事業所間の協力体制が整えられています。また、災害時に備えて、夜間訓練の実施についても検討中とのことです。		災害時には、職員による対応だけでなく、地域の人々の協力も不可欠です。今後は、地域の人とのコミュニケーションをさらに深め、万が一の場合にも地域の人や関係機関の協力が得られるよう取り組みをすすめることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者の心身の特性を認識されており、定期的に水分摂取を促すとともに、個別の記録を活用して、職員間で情報共有を図りながら、1日を通して必要な水分が確保できるよう取り組まれています。また、利用者の状況に応じて、キザミ食、とろみ食等の提供が行われている他、医師と相談のうえ栄養剤を提供するなど、利用者の栄養バランスにも配慮されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは、温度が集中管理されている他、全面がガラス張りで、室内はとて明るく過ごしやすい空間となっています。暖かい日には、ベランダでひなたぼっこをしながら談笑する利用者の姿が見受けられるなど、利用者が季節の風や匂いを感じながらくつろげる環境づくりに取り組まれています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の使い慣れたものが持ち込まれており、これまでの自宅での生活が思い浮かぶ個性的な居室となっています。位牌へのお供えやなじみのある椅子でのテレビ観賞等、一人ひとりの生活習慣が継続できるよう支援することで、利用者の安心感が得られるよう取り組まれています。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームなごみ I

評価年月日 年 月 日

記入年月日 年 月 日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 氏名

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	基本理念の中に「その人らしい尊厳を認め合う生活を支援します」を取り入れている。	○	理念の浸透が十分ではない。 意識的に取組んでいきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	玄関の出入りに、額を入れ掲げたり、キッチンや毎日使用しているファイルなどに閉じていつでも、理念に目が通せるようにしている。	○	スタッフの認識が不十分。 今後も取り入れていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	広報を制作し、不定期にご家族へ郵送している。 面会に来て下さる方には、必要時説明をさせていただいている。	○	広報を、年末年始に郵送し、ご家族に喜ばれました。 今後も、継続していきたい。

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	外出時、散歩、ベランダへ出ている時に姿を見かけると、明るく元気よく声をかけている。	○	隣近所の方達から先に、あいさつされることも増え、わずかであるが関係が取れ始めているよう。 今後も、同じ姿勢で関わっていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の幼稚園の運動会に参加させて頂いたり、ボランティアによる演芸、マジックショーなど、みせて頂きました。	○	地域のニュースの情報収集に努めて、地域との交流を持てるように、取組んでいきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	各ユニットごとに、月1回のミーティングを開き、入居者の身体状況に沿って活発な意見を交わしています。結果を介護計画に盛り込んで、日々のケアに生かし、家族にも随時説明を行っています。問題発生時には、緊急ミーティングを行っています。	○	今後は、家族にも出席していただけるように、していく。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	今回、自己評価が初めてなので、十分に生かして行きます。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	3.4ヶ月に1回のペースで、当ホームで開催しています。出席者の意見要望を受け入れて、サービスの向上に努めていきます。	○	今後は、出席者の内容の濃いご意見を頂き、それに応えていきたい。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	入居状況の提供や、入居希望者への対応をしています。	○	より多くの機会を、持ちたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	ユニットごとのミーティングで議題に上げ、学習しています。	○	学習の機会を、多く持ちたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者、ホーム長、スタッフ全員で、ケアの現場での虐待防止について、真剣に検討し注意を払い、日々防止に努めています。	○	学習の機会を多く持ち、防止と早期発見に努めたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時、または契約時に十分に説明をさせていただき、理解、納得をさせていただいています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	リビング入り口に、ご意見、ご要望を記入していただくように、所定の用紙を用意しています。 現在までにまだ、要望はありません。	○	苦情については、十分把握に努め理解をしていただけるように、努力していきます。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	入居者の生活の様子については、面会時に説明させていただいています。また受診時には、経過観察表、排泄、睡眠状況などを医療機関に提供しています。	○	随時、利用者の状況に応じて提供していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	現在まで、該当の要望はありません。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月各ユニットで、ミーティングで意見交換を行い運営に反映させています。	○	運営に関するスタッフの意見にも、十分に反映させていきます。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	シフト表の作成については、前月に希望を受け入れたり、行事には必要な人員を確保できるように調整をします。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動については、スタッフ本人の同意を得て入居者への影響が最小限になるよう配慮しています。	○	今後も注意を払いながら、調整をしていきます。
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	同業者、施設への研修を依頼し、ケアの向上に努めています。	○	H19.10 月在職スタッフは、普通救命講習Ⅱを修了しました。 保健所から感染症対策の講習を、受けました。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域への同業者への研修や、交流の機会を持てるように、取り組んでいます。	○	交流の機会を多く、持ちたいと、思っています。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	スタッフは午前と、午後の間に休憩を持てるよう配慮しています。また、各ユニットでスタッフ同志、声かけを行うようにしています。	○	定期的に食事会を行い、職員同志が話せる場を、設定しています。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	報告、連絡、相談を充実させて、各自が向上できるよう、働きかけています。	○	今後も、働きかけを続けて個人のスキルアップができるようにしていきます。
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	家族や本人に、出生から現在までの生活歴、職歴、結婚、家庭生活などを聞かせていただき、受容できるように努めています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居希望時、聞きとりの面談を十分に行い、家族の抱えている事柄を、できるだけ受け止めるように、努めています。	○	今後も、できるだけ面談の時間を有意義に活用できるよう、努めていきます。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族がどのような生活を、望んでおられるのか、適したサービスが何か、を見極める支援を、しています。	○	今後も、変わらず努力をしています。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人や家族の思いを聞き、それに沿ったケアが提供できるように工夫しています。	○	今後も、変わらず継続していきます。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理、洗濯、掃除、など日常生活を一緒に行い、スタッフの方が教えていただく立場で日々、学ばせていただいています。	○	距離感を考えながら、今後も関係を築いていきます。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の面会時には、本人の現在の状況を記録などで説明。外出、外泊時には家庭での様子の情報を話していただく、など情報交換を行い、共に支える関係ができています。	○	
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	これまでの、生活歴などを聞かせてもらいながら、これからの生活が、生きがいにつながるように支援しています。	○	本人と家族のよい関係が、今後も継続されていくように努めていきます。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	大切な友人との通信や面会なども、遠慮なく続けていけるような支援を行っています。	○	面会に来られた家族、友人の方たちと記念写真を撮らせていただき、ご本人のアルバムに入れて、いつでもなじみの顔が見られるようしています。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者様同志、徐々になじみの関係ができ、よい関係を作る支援をしています。その中でも、孤立させないように、気配りを心がけています。	○	随時入居される方と、現在入居しておられる方との交流が、スムーズに行えるよう心がけていきたいと思っています。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	家族には、関係を断ち切らない付き合いを、大切にしていきたいと、伝えていきます。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人、家族の生活に対する意向は、面会時に聞かせてもらい、可能な限り希望にそえるよう、検討しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、家族に協力してもらい、生活暦、暮らし方、生活環境、これまでの経過の把握に努めています。	○	十分でないため、取り組みに努力していきます。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの状況が、把握できるように努めています。	○	日々、入居者の体調の変化がみられるので、随時把握に努めています。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画は、本人が生活しやすく安全で、実行可能な内容にしている。ミーティングで十分な検討を行い、計画書を、作成しています。	○	ミーティングでの検討と、伝達を十分に行っています。
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況の変化、介護保険の有効期間、入・退院時、状況の変化に伴い見直しを行っています。	○	本人・家族の希望に沿い、随時変更し、現状に即した介護計画を作成しています。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人別に、気づきや工夫を申し送りノートで共有しながら、ケア、介護計画に反映させています。		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人・家族の必要に応じて、事務所での話の時間を設けています。		
----	--	--------------------------------	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議を定期的開催して、民生委員、町内会長、幼稚園などの支援を依頼しています。	○	不十分なため、今後も取り組んでいきます。
----	---	--	---	----------------------

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて、紹介援助の支援をしています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を定期的開催しているが、現在までは十分とはいえない。	○	きめ細かい連携がとれるように、努力していきます。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人、家族の希望を聞きながら、主治医提携医と事業所の、より良い関係を築き、体調の安定のために支援しています。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	本人、家族が相談をしやすいように受診時は症状の内容、生活状況の情報を、提供しています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	スタッフの一員として、看護師がいるので必要時はいつでも気軽に相談できています。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	退院後も、安心してホームでの生活ができるように入院中は、情報提供を依頼し、相談できる関係を築く努力をしています。	○	安心して過ごせるよう、高齢者の特性を十分に把握します。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	体調の急変などで入院になり、入院期間中の状態や、退院に向けての話し合いは、随時家族、スタッフ、かかりつけ医で、話し合いをもっています。	○	随時、話し合いを十分にもち、本人に適した態勢で、終末期を迎えられるように、支援をしていきたいと思っています。
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	「できること、できないこと」を記入して、見極めを十分にし、重度化した状態でも、本人なりの生活ができるように今後のことを検討しています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	グループホームから、別の居所に移動するときは、本人、家族の希望を十分に聞き取り、より良い生活の実現に向けて情報交換を、しています。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	声かけ、記録などには十分気をつけています。記録上では、個人の名前はアルファベット4文字で表記しています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自分の思いを、表出できない人もいるので、やさしく、ていねいに声かけを、しています。可能な限り自己決定が、生活の中でできるよう、働きかけをしています。	○	働きかけによって、自己決定が行えるように支援を続けていきます。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	大まかな日課はあるが、本人の都合の良いように、生活をされています。レクレーションの内容は入居者の希望を聞きながら、すすめています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の望む洋服や、おしゃれを楽しめるような言葉かけや、援助を行っています。	○	本人、家族の望まれる店には、まだ行くことができていないので、今後援助していきます。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の希望を聞きながら、決めている。準備、片付けもできる人には、協力をしてもらっています。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつなどの水分は、希望をききながら体調を考慮しつつ、楽しめるようにしています。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを日々の記録で把握し、声かけ誘導を行い、失敗や、恥ずかしい思いをしないように、支援しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴できるように、準備を行っています。希望に沿って、入浴を楽しめるようにしています。	○	レクリエーション以外の日は声かけて、入浴して頂いています。長湯による体調の変化には、十分気をつけています。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個人の生活習慣に沿って、ソファや、自室で休息できるようにしています。	○	夜間、ソファで休みたい方がおられるので、状態を見ながら支援しています。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	日々の生活の中で, できることを手伝ってもらい, 必ずねぎらいの声かけをしています。 調理, ガーデニングなどの支援をしています。	○	趣味を生かして, 余暇を楽しんでいただけるように十分な支援をしていきます。 ぼんやりしてる時間を少なくして, 活気作りにつなげていきます。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。	お金の所持は, 家族の理解と協力で, 希望に添えるようにしています。 自分で買い物できる喜びを, 感じる支援も行っています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに, 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援している。	朝の散歩, 買い物などで戸外へ出られるよう支援しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに, 個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	季節感を感じてもらうために, 紅葉狩り, ドライブなどで, 他入居者, 家族と出かける機会を, 設けています。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や, 知人などからの手紙や, 電話を自由に受けとれるよう, 支援しています。 誕生日に, カードや手紙が届きました。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している。	なじみの方たちが, 遠慮なく来てもらえるようオープンな状態で, 受け入れています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを、運営者およびすべての職員が理解して、ケアの支援をしています。 玄関は、夜間のみ施錠しています。リビングも日中はオープンにしています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	正しく理解して、鍵をかけないケアをしています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	スタッフ同志で、声かけを十分にして、所在の確認を、行っています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個人に合わせた危険防止を、ミーティングで十分に話しあい、検討し、取り組んでいます。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個人の状態に合わせて、転倒しにくい履物を検討したり、誤薬防止のために、薬品は手の届かないところに保管したり、目につかない場所に保管しています。	○	認知症の症状がすすんで、誤飲、異食などが発生しやすいので、今後も十分な対策をしていきます。
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	救急救命研修を受講して、急変や事故発生時の的確な対応が、できるようにしています。	○	何度も研修を重ねて、緊急時に対応ができるように学習していきます。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災訓練を実施し、安全に生活ができるように取り組んでいます。 近隣の方には協力して頂けるように、働きかけています。	○	初回の防災避難訓練を、実施しました。 今後も定期的に取り組んでいきます。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	利用者、ひとり一人の体調把握に努めています。 家族の協力が得られるように、しています。生活の中の安全に、配慮しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の体調把握に努めて、異変の早期対応ができるように、情報の共有をしています。	○	十分な体調把握が、できるように随時、情報の共有に、努めていきます。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の副作用については、随時把握して、理解に努めています。	○	主治医との連携を十分に持ち、一人ひとりの様子を観察していきます。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排便の確認を記録に残して、本人のパターンを把握し、個人にあわせて、水分摂取、適度な運動、などを声かけをしながら管理を行っています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、個性を生かした方法で口腔ケアを行い、口腔内の清潔が保たれるよう、支援しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べられる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	実際に、摂取した量を記録に残しています。 また、状態に応じて食事形態を、考慮しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザなどの感染症の対策を、スタッフで研修し、必要物品を備えています。 外出後や、面会に来られたかたには、手洗い、うがいを行っていただいています。	○	ノロ対策の指導を受け、感染が拡散しないように、スタッフに処理の仕方を伝えました。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日の調理後、調理用具の殺菌消毒を行っています。 食材は毎日購入し、新鮮な野菜などを食べていただけるよう、努めています。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前には、鉢うえを置いて、親しみやすい雰囲気作りに努めています。 玄関は、手すりを取り付け、安心して出かけられるように、工夫しています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースは特に過ごしやすいように工夫を、凝らしています。季節感、生活観などを取り入れて居心地よく過ごせるように、しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングでは、ひとりで新聞を読んだり、仲良く話ができるようソファを置いています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自室では、お気に入りのものを飾ったり、家族と遠慮なく話ができたり、安心して過ごせて、居心地良く過ごせるようしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日、自室の空気の入れ替えを行い、換気に努めています。 気温にあわせて、空調の管理も行っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	リビング、廊下、トイレ、キッチン、など安全に、自立した生活ができるように、工夫されています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自室が理解できるように配慮し、トイレには入り口に大きく「トイレ」と表示をし、自立した生活が実現できるように工夫しています。		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダにプランターを用意して、野菜や花を育て、楽しんでいます。	○	夏にはプチトマト、きゅうりの収穫があり、秋から冬にかけて、わけぎなどを収穫。現在は、チューリップが芽を出しています。 今後も、続けていきます。

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームなごみ II

評価年月日 2008 年 3 月 19 日

記入年月日 2008 年 2 月 25 日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 2Fユニットリー 氏名 保手濱 努

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	基本理念の中に「その人らしい尊厳を認め合う生活を支援します。」を取り入れている。	○	理念の浸透が不十分、意識的に取り組んで行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	スタッフルーム・キッチン等の見える位置に理念を掲げ、管理者・スタッフで共有し実現に取り組んでいる。	○	スタッフの意識が不十分、意識的に取り組んで行きたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	面会に来て下さる方に、目を通していただいている。必要な時、説明をさせていただいている。	○	説明が不十分の為、丁寧に説明をして行きたい。

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近の方には、スタッフの出退勤時、入居者との外出などに会った時は必ず挨拶し、いつでも気軽に来て頂けるように、明るく声かけをしている。	○	隣近とのなじみの関係が不十分、今後も取り組んで行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の幼稚園の運動会に参加させていただきました。ボランティアによる演奏・マジックショーも見せていただきました。	○	今後はもっと地域の行事等に参加して行きたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	月1回ユニットごとにミーティングを開き、入居者の身体・精神状況に沿って意見交換をし、結果を介護計画に盛り込んでいます。必要に応じて緊急ミーティングもしています。	○	状況によって、家族の方にも出席していただけるようにして行く。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	今回 外部評価が初めてであるので、評価を十分に生かして行きたい。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	3・4ヶ月に1回のペースで当ホームで開催しています。	○	出席者の意見・要望を受け入れて、サービスの向上に努めて行く。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	入居状況の提供や入居希望者への対応をしています。	○	多くの機会を持ちたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	ユニットごとのミーティングで学習して活用できるようにしています。	○	学習の機会を多く持ちたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者・ホーム長・スタッフ全員でケアの現場での虐待防止について検討し、注意を払い、防止に努めています。	○	学習の機会を多く持ちたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時または契約時に十分説明をさせていただき、理解・納得をさせていただいています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	1F リビング入り口に、ご意見・ご要望を記入していただくように、所定の用紙を用意しています。	○	苦情については、十分に把握に努め、理解していただけるように努力していきます。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	入居者の生活の様子については、面会時などに説明させていただいています。又、受診時には、バイタルチェック表、排泄状況、睡眠状況などの記録をコピーして医療機関に提供しています。	○	必要に応じて、随時報告して行きたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	現在まで該当の要望はありません。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月各ユニットのミーティングで意見交換を行っています。	○	運営に関するスタッフの意見にも、十分に反映させていきます。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	シフト表の作成については、前月に希望を受け入れたり、行事には必要な人員確保できるように調整している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動については、スタッフ本人の同意を得ています。入居者への影響が最小限になるように配慮しています。	○	注意を払いながら、調整していきます。
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	同業者・施設への研修を依頼し、ケアの向上に努めます。	○	不十分なため、取り組みを強化します。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域の同業者への研修・交流の機会を持てるように取り組んでいます。	○	交流の機会を多く持ちたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	スタッフは昼食後、休憩を持てるように配慮しています。各ユニットでスタッフ同士の交流も出来るように出退勤時には、声かけをするようにしている。	○	リーダーとしてスタッフの思いを受け止めて行きたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	スタッフ同士の交流が出来るように、食事会を実施したり、意欲を持って勤務できるように努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	家族や本人から生まれてから現在までの生活歴・仕事歴などを聞かせてもらい受容できるように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居希望時、聞き取り面談を十分に行い、家族の抱えている事柄を出来るだけ受け止めるように努めている。	○	今後も、できるだけ面談の時間を大切にしていける努力をする。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族がどのような生活を希望されているのか十分に聞き取り、もっとも適したサービスは何か共に見極める支援をしている。	○	今後も変わらず、努力して行きたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気次第に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居間もないときは、家族にも協力してもらいながら、ホームで穏やかな生活の実現を目指して、支援していきます。	○	安心のできる生活実現に向けて、努力します。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、食事・レク・家事などを共に行うことにより、理解しあえる関係を徐々に築いています。	○	職員のスキルアップには、時間と機会が必要。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の面会時には、本人の現在の状態を記録などで説明し、共に支える関係が出来ている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	これまでの生活歴などを聞かせてもらい、これからの生活が生き甲斐につながるように支援しています。	○	本人と家族の良い関係が、続くように努力して行きます。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人との通信や面会なども、遠慮なく続けていけるような支援を行っています。開けたホームを心がけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	生活暦の違う方達が縁あって、同じホームでの生活をされる中で少しずつなじみの関係が出来るように見守り、声かけをし、孤立させないように配慮を心がけている。	○	入居される方と、入居しておられる方との交流をスムーズに行えるように心がけていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	家族には関係を断ち切らない付き合いを大切にしていきたいと、伝えていきます。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人・家族の生活に対する意向は、面接時などに聞かせてもらい、できるだけ添えるように検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人・家族に協力してもらい生活暦・生活環境など、これまでの経過の把握に努めている。	○	不十分の為、取り組みに努力して行く。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	本人それぞれの現有能力の把握に努めている。	○	日々入居者の体調の変化が見られるので、随時把握に努めて行きます。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画は本人が生活しやすく安全で実行可能な内容にしている。ユニットでのミーティングで十分な検討を行い、意見を反映した計画書を作成している。	○	ミーティングでの検討と伝達を十分に行って行きたい。
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況に応じた介護計画の見直しを随時行っている。介護保険証の有効期限、入退院時、状態の変化に伴い見直しを行っている。本人・家族などの話し合いを行っている。	○	本人・家族の希望に添い、随時変更し現状に則した介護計画を作成して行きたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の生活記録は個人別に気づきや工夫を、申し送りノートで共有しながらケア・介護計画に反映させている。		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人・家族の必要に応じて、事務所での話の時間を設けている。		
----	--	-------------------------------	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議を定期的開催して、民生委員、町内会長、幼稚園などの支援えお依頼している。	○	不十分な為、今後取り組んで行きたい。
----	---	--	---	--------------------

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて、紹介援助の支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を定期的開催しているが、現在までは十分とはいえない。	○	きめ細かい連携が取れるように努力して行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人・家族の希望を聞きながら、主治医・提携医と事業所のより良い関係を築き、体調の安定のために支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の専門医への受診時は、バイタル・生活状況の提供を行い、本人・家族が相談しやすいように支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	スタッフの一員として、看護師がいるので必要時いつでも、気軽に相談できている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	安心して退院後もホームでの生活が出来るように、入院中は情報提供を依頼し、相談できる関係を築く努力をしている。	○	高齢者の特性を十分に把握して行きたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	体調の急変などで入院になり、入院期間中の状態や退院にむけての話し合いは、随時家族等、ホームスタッフ、かかりつけ医で話し合いを持っている。	○	随時話し合いを十分に持ち、本人に適した体制で終末期を迎えられるように支援して行きたい。
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	「出来ること、出来ないこと」を記入して、見極めを十分に示して、重度化した状態でも本人なりの生活が出来るように今後の事を検討している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	グループホームから別の居所に移動するときは、本人・家族の希望を十分に聞き取り、より良い生活の実現に向けて情報交換をしている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重

50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	個人情報の保護に則り、声かけ、記録などには、十分きをつけている。記録上では、個人名はアルファベット4文字で表記している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	個人で自分の思いを表だし出来ない方もあるので、やさしく丁寧に声かけしている。できるだけ自己決定が生活の中で、できるように働きかけている。	○	認知症・生活暦もそれぞれ異なるため、状態の把握が早期にできるように、スタッフのスキルアップをして行きたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日のレクなどでは、入居者の希望を聞きながら、進めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	朝起きて、着替えをされるときは本人の希望に添えるように、洋服を選ぶ手助けをしている。家族の協力を得て、美容院に行かれている方もいる。	○	本人・家族の望まれる店には、行かれていないので、今後支援して行きます。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立を決めるときは、できるだけ希望を聞きながら決めている。準備・片付けも出来る方には、協力してもらっている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつなどの水分は希望を聞きながら、体調も考慮しながら楽しめるようにしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを日々の記録で把握し、失敗や恥ずかしい思いをしないように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴できるように準備している。希望に添って入浴を楽しめるようにしている。	○	レク・往診以外の日は、声かけて入浴していただいている。長湯のために、体調の変化がみられる方があるので、入浴時間と体調把握を十分にしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個人の生活習慣に沿って自室やソファで休息できるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日々の生活の中で、できることを手伝ってもらい、必ずねぎらいの声かけをして、張り合いを感じてもらう支援をしている。調理・編み物で気晴らしの支援をしている。	○	趣味などを生かして、余暇を楽しんでいただけるように支援をしていきたい。ぼんやりしている時間を少なくして活気につなげていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の所持は、家族の理解と協力で希望に添えるようにしている。自力で買い物できる喜びを感じる支援を行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物などで、戸外に出かけられるように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	季節感を感じてもらいたいために、紅葉狩り・ドライブなどで他入居者・家族と出かける機会を設けている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や知人などからの、手紙や電話を自由に受けたり、受け取ったりできるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	馴染みの方達が遠慮なく着てもらえるようにオープンな状態で受け入れている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを運営者及び全ての職員が理解して、ケアの支援をしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	正しく理解をして、鍵をかけないケアをしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	スタッフ同士で声かけを十分にして、所在の確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ミーティングなどで十分に話し合っ、検討し取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個人の状態に合わせて、転倒しにくい履物を検討したり、誤嚥防止のために消毒などの薬剤を手の届かない所に保管したり、目につかない所に保管したりしている。	○	認知症の症状が進んで誤嚥・異食などが発症しやすいので、今後も十分な対策をして行きます。
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	救急救命研修を受講して、急変や事故発生時の的確な対応ができるようにしている。	○	何度でも研修を重ねて、緊急対応ができるように学習していきます。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災訓練を実施し、安全に生活ができるように取り組んでいる。近隣の方には、協力していただけるよう働きかけている。	○	初回の防災避難訓練を実施しました。今後も、定期的の実施して行きます。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	利用者一人ひとりの体調把握に努めている。家族の方にも協力が得られるようにしている。生活の中での安全に配慮している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の体調把握に努めて、変化に早期に対応できるように情報の共有をしている。	○	十分な体調把握が出来るように随時情報の共有に努めて行きます。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の作用、副作用について随時把握して、理解に努めている。	○	主治医との連携を十分に持ち、ひとり一人の様子観察を十分にしていきます。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排便の確認を記録に残して、本人のリズムを把握し予防と原因の究明に努める。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後にひとり一人にあった口腔ケアの方法で、口腔内の清潔が保たれるように支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	本人の自宅での食事摂取量に応じて、提供し実際に摂取した量を記録に残している。また状態に応じて食事形態を考慮している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザなどの感染症の対策をスタッフで研修し、必要物品を備えている。随時実行している。	○	時期的にも、発症しやすい感染症については今後十分に対応して行きます。 ノロ対策の指導を受け、感染が拡散ないようにスタッフに処理の仕方を伝えている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日の調理、調理用具の殺菌消毒を心がけている。また、食材は毎日買って新鮮な野菜などを食べていただくように努めている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。			
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースは、特に過ごしやすいように工夫を凝らしている。季節感・生活感などを取り入れて居心地よく過ごせるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングでは、一人で新聞を読んだり、仲良く話しがけできるように、ソファを用意している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自室では、家族と遠慮なく話ができたり、安心して過ごせるように気に入った物を置いたりできるように工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日自室の空気の入替えを行い、換気に努めている。 本人の状態に応じてエアコンの調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	リビング・廊下・トイレ・キッチンなど安全に自立した生活が出来るように工夫されている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自室が理解できるように配慮し、トイレの入り口には大きな「トイレ」と表示して見当障害を未然に防ぎ、自立した生活が実現できるように工夫している。		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダには、プランターを用意して野菜や花を育てたり楽しんだり活動ができるようにしている。		じゃがいもの植え付け、チューリップの球根の植え付けをしている。